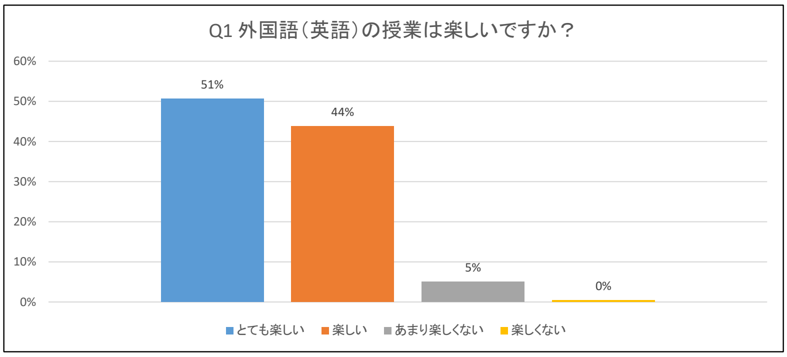
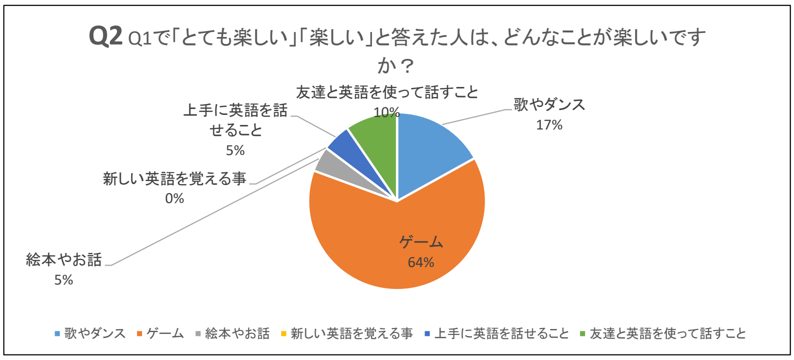
令和5年度外国語（英語）の授業に関する児童用アンケート調査結果の分析・考察（豊福小）

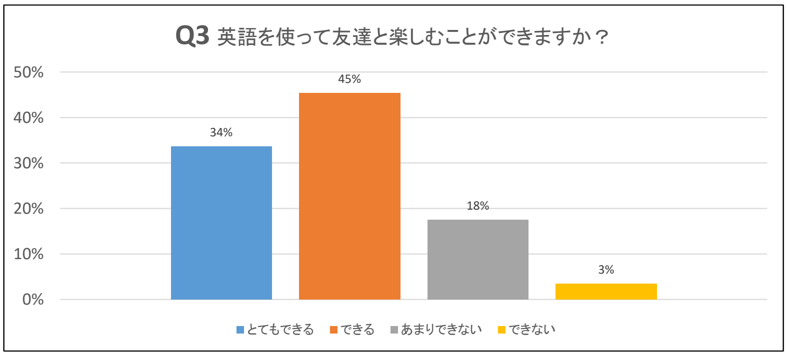


【Q1について】

「とても楽しい」、「楽しい」と回答した児童の割合が95%を占め、大変多くの児童が外国語（英語）の授業に意欲的に取り組んでいる様子が伺える結果となっています。
英語専科ならびにALTによる授業改善の結果とも考えます。
今後も、楽しい授業づくりに取り組んでまいります。

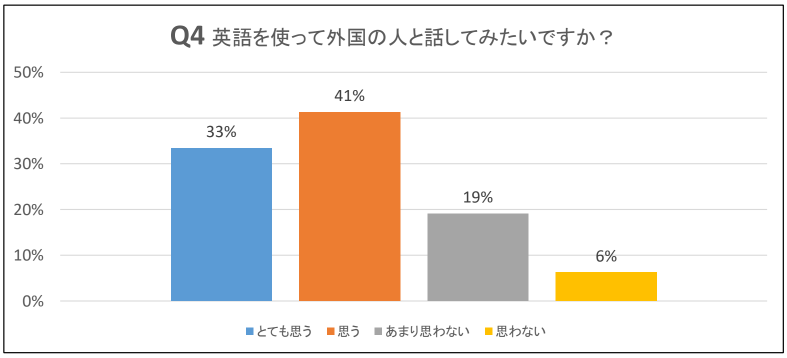


【Q2について】
小学校という段階で、初めて英語に触れる児童が大多数であることはいうまでもありません。そのような児童が、「英語の授業って楽しい。」と感じるような授業づくりを念頭に授業づくりは行っています。そのための活動（アクティビティー）を取り入れた教材や授業づくりがなされていますが、それ自体が「楽しい」ととらえている様子が伺えます。
少数派ではありますが、語学学習自体、新しい言語の獲得自体を楽しいと感じている児童もいます。高学年になるにつれ、そのような児童の割合が増えていくような授業改善を今後も目指していきたいと考えます。



【Q3について】

英会話（英語を使ってのコミュニケーション）を楽しんでいる児童の割合は、79%と比較的多いのですが、「あまりできない」「できない」と回答した子供たちも21%います。
児童の中には、発表することや表現することに対し苦手意識を持つ児童がいます。そのような児童にも勇気を持ち「話してみよう」「話せた!」「楽しい!!」と感じてくれるような授業づくりに取り組んでいきます。



【Q4について】
Q3と同様に、コミュニケーションツールとしての「英語」と向き合う場面では、我々大人も身構えてしまうのではないでしょうか。いうまでもなくコミュニケーションを取ろうとする相手が外国の方だとしたらその壁はさらに高くなります。
しかし、その反面コミュニケーションが成立すればその感動はより大きいものとなるはずです。
宇城市からネイティブのALTの先生が派遣されています。
そのような先生たちとのコミュニケーションを経験していくことで、チャレンジする勇気や成功体験を獲得し、英語でコミュニケーションする喜びを味わえるのではないと考えます。

【保護者・学校関係者からの意見・要望等】

- 楽しみながら英語を身に付けてほしい。
- 教科としての英語にとどまらず言語（コミュニケーションツール）としての英語としてその獲得につながってほしい。
- 英語嫌いを作らないでほしい。
- 中学校の英語教育との接続をうまくしてほしい。
- 英語専科の環境を広めてほしい。

【考察・今後の展望等】

宇城市には、「うきうきイングリッシュ」から取り組んできた英語教育の積み重ねがあります。グローバル化が進む現代社会を生き抜くには、英語は大変有用なものであることは確かなことです。
「教育課程特例校」という本市のストロングポイントを十分に生かした実践を継続してまいります。「英語が好き」という児童が一人でも多くなることを念頭に今後も授業改善に取り組んでまいります。